

1.技 術	1.5 その他
2.事 業 名	1.5.5 大孔径膜ろ過と生物処理を併用した雨天時処理システムに関する研究
3.キーワード	下水道、膜分離、生物処理
4.目的	<p>本事業は、流入変動の大きい雨天時浸入水の流入特性を、ICT 及び観測技術を活用して高精度に予測し、雨天時浸入水を既存施設の処理能力を最大限発揮させた上で、大孔径膜を用いて効率的に処理する水処理システムを開発することを目的とする。</p>
5.内容、成果	<p>分流式下水道において降雨時に発生する雨天時浸入水は、その量が著しい場合、下水処理場への流入下水が処理能力を上回り、処理機能に重大な影響を及ぼす。そのため、処理能力を上回る雨天時浸入水は、バイパス水路で消毒のみ、もしくは未処理のまま放流しているケースが多く、環境保全の面から社会的な問題となっている。本研究は、本問題の対策技術となるシステムの開発を目指している。</p> <p>令和2年度は、大孔径膜の運転性能と耐候性、塩素消毒効果、塩素混和池流体解析、流量予測等についてデータ収集及び検討を行い研究報告書を提出した。令和3年度事業として研究継続の採択を受けている。</p>
6.参照	<p>本事業は、国土交通省下水道革新的技術実証事業(B-DASH プロジェクト)FS調査の採択を受け、本財団を研究代表者として、京都大学、北九州市立大学、(株)フソウ、阿波製紙(株)、日本水工設計(株)の共同研究事業として実施したものである。</p>